

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400200
法人名	医療法人竹林院
事業所名	グループホームかぐや姫
所在地	西予市野村町野村11-95-1
自己評価作成日	平成28年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 7 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・併設のデイサービス利用者との交流が自由にもてる。 ・併設に病院があり、希望に応じ受診、物療、リハビリが受けられ、対応も早い。 ・栄養士が献立を立てており、栄養のバランスがとれている。 ・月に1回、ボランティアによる音楽療法を実施。 ・月に2回、同法人との交流会を実施。 ・院長自ら、週1回程度GHを訪問し入居者との面談を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は田園地帯にあり、窓から見える風景に季節の移ろいを感じることができる。母体の診療所にはデイサービス、訪問介護事業所を併設されており、診療所に来た人やお見舞いに来た人がデイサービスで日常的に交流も行われている。近くには小学校、保育園、交番、市役所支所、銀行などがあり、生活しやすい恵まれた環境である。事業所と母体の診療所は協力体制が取れており、地域に密着した医療・介護の施設として運営され、利用者は安心してサービスを利用することができる。管理者は職員とのコミュニケーションを大切に、職員もまた管理者の声に耳を傾け何でも相談できる良好な関係が築かれている。地域とのつながりをさらに深め、地域とともに歩んでいけるような事業所を目指し日々取り組んでおり、さらなる発展が期待できる事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各階それぞれに理念があり、毎日の申し送りや月に1度の勉強会などで理念に触れ、職員皆が同じ方向制を持ち意見の統一を図りながら実践につなげている。	
			(外部評価) 理念は玄関先に掲げられ、管理者と職員一人ひとりが高い意識を持って実践している。また、毎月第2火曜日には法人全体の勉強会や各部署のケア会議を行うなど、理念の実践ができるような体制づくりに努めており、研修報告は法人全体の勉強会で発表している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 隣の幼、小学校との交流の機会がある。公共の図書館、児童館も近隣に移設された事から出かけ、本を借りたり子供達とふれ合っている。	
			(外部評価) 幼稚園の園児やバルーンアート、カラオケ、三味線、音楽療法など数々のボランティアの訪問がある。また、中学生の職場体験の受入れや近隣小学校の運動会見学、秋祭りには子供神輿の訪問があり、利用者の楽しみの一つになっている。地域の清掃行事には職員が参加するなど、地域とのつきあいもできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方から認知症についての相談を受けている。人材育成のために、実習生やボランティアの受け入れを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 地域住民、消防署長、警察署長、校長、市担当者等の参加を得て、ホームでの生活の様子、行事の報告の他、消防署長には震災への対応、警察には徘徊についての対応などの助言をうけている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、同法人が市内で運営するグループホームと合同で開催している。会議には市担当職員、消防署長、小学校長、近隣住民、利用者、家族など幅広い参加があり、事業所の職員も交代で参加し、利用者の生活状況の報告や参加者からの貴重な意見や情報を実際に聞くことができる有意義な会議となっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 各関係機関との情報交換を行っている。今後とも共同関係が出来るように担当者と会う機会を増やすようにする。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議への参加を得て、事業所の利用状況や取組みを報告し意見交換している。半年に1度、介護相談員の訪問がある。また、市地域包括支援センターを基点に「キントーン」という情報ネットワークの活用により、新情報もいち早く入手できるよう整備されている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束等の研修に積極的に参加し、職員全員が身体拘束に関する理解と意識を持っており、身体拘束は行っていない。</p> <p>(外部評価) 外部研修に職員が参加し、研修報告は法人全体の勉強会で全職員へ周知しているほか、事業所独自の身体拘束のマニュアルを作成し、ミーティング等で身体拘束をしないケアについて話し合いを重ね実践に生かしており、今後は定期的なマニュアルの見直しも検討している。安全面に不安のある利用者の家族からは、安全確保の要望等もあるため書面により同意を得て、出入口に鈴をつけている。また、言葉での拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員が進んで、研修会に参加している。日々の利用者の声、表情、身体状態を十分把握し、安心して生活できるよう努める。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、知識取得に努力している。現在は制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上で入居されている。契約内容はわかりやすい表現を心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 話し易い雰囲気、環境作りに努め、出された意見等は直ぐに話し合いを持ち反映させている。毎年1回の家族会や面会時には利用者さんをまじえて、意見、要望を聞くように努め、得た情報は記録に残し、全職員で共有できるようにしており、必要に応じて、話し合いの場を設けている。	
			(外部評価) 利用者や家族等の意見や要望は、月1回、利用料の支払いでの来所時や家族会、電話連絡をする機会などで聞くよう努めている。出された意見は些細なことまで気に留めて申し送りノートに記入し、全職員で迅速に対応するよう心がけ、家族の希望があれば外泊を全面的に支援するなど要望等にも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常にコミュニケーションを図れるよう心掛け、要望や意見を聞くようにしている。必ず年1回の代表者との個別面談を実施している。又、月1回のリーダー会もあり必要時は職員の意見を聞く場を設けている。新採用職員には頻発に意見を聞く場を設け、早く職場になじめるよう努めている。 (外部評価) 毎月1回法人全体での会議を行い、会議終了後は事業所に戻り職員会を行っている。職員会では日々のケアについて話し合い、行事等について意見やアイデアを出し合っており、事業所で解決できないことは幹部会で報告し対応している。また、年1回職員は、法人代表者との個別面談で意見を伝えることができるようになっており、今年度は給与面での改善があるなど、管理者は職員が気軽に相談できる関係づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格給、精勤手当、昇級とあり、就業環境を考えてもらっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に1度、施設内の研修を実施している。施設外研修では希望を聞き、年間を通してひとりが2～3回は受講できるようにしている。(研修への参加費として定額の手当を支給)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県、南予地区、市GHに連絡会があり、情報交換をしながら質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 地域定着型そのものの殆どが町内の為、利用者の状態をよく把握し、職員皆が情報を共有することができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 月に1回は家族の訪問(来所)をお願いしていることから、家族の話に耳を傾け、何を望んでいるのか、家族の気持ちになって受け止める努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 正確なアセスメントや家族の思いを傾聴し、満足できる支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩である意識を忘れず、尊敬の気持ちを込めた声掛けに配慮している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) どんな小さな事でも家族と連絡を取り合う事で信頼関係を築き、同じ思いで支援することを伝える。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) スーパー、なじみの美容院、友人宅、お墓参りに行ったり、地域の行事などに参加する事で、馴染みのある生活の継続を支援している。外出の際には利用者全員に事前にもう一度行きたい場所を聞いておき、思い出の場所巡りをしている。	
			(外部評価) 家族、親類、友人や併設のデイに来た知人の面会があり、「昔遊んだ川に行きたい」「海を見に行きたい」「自分が生まれた場所に行きたい」などの要望を叶えたところ大変喜ばれたり、関西在住の友人が帰省時に面会に来るのを心待ちにしている利用者の面会を支援するなど、馴染みの関係が継続できるよう努めている。また、面会回数の少ない家族には電話連絡をこまめにするなど、馴染みの関係が途切れないようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が間に入りながら、上手く関係が築けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了した後も病院や施設に様子伺いをしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のなにげない会話の中から、本人の気持ちや要望をくみ取り、それを必ず記録に残し、職員全員が共有できるようにしている。必要に応じて、家族にも協力をお願いしている。	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりに向き合いながら、思いや意向を把握するよう努めている。意思疎通の困難な利用者には、普段のしぐさや表情などから意向をくみ取ったり、家族からの情報で思いを把握するよう努めている。利用者の思いは可能な限り実現できるよう努めており、把握した情報は日誌や申し送りノートに記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接、家族、本人から話を聞き、把握する。面会時や日常生活の中でこれまでの暮らしを知ること努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の性格、習慣を把握し、できること、分かる力を生活の中で見つけていく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネ、担当者、各階のリーダーが主になって、本人、家族の思いや意見を聞き、月一回モニタリングを行い、状況確認し、3ヶ月に1回話し合いをし、見直しをしている。退院後など状態の変化に応じて、随時見直しをしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を反映し介護計画を作成している。遠方の家族には事前に電話連絡し、思いや意向を聞いている。利用者や家族から「握力をつけるため、新聞紙折りを続けたい」「歩行練習をしたい」「自力運転を続けたい」との希望を介護計画に盛り込み取り組んでいる。毎月のミーティングでモニタリングを行い、必要に応じて介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録し、それを基に介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設のデイサービスとの交流、併設病院への受診、物療、リハビリなど、その時の要望に応じて対応できる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年数回の三味線や、音楽療法のボランティア来てもらっている。年に何度か、幼、小、中学校との交流会がある。消防署の協力を得て防火訓練を行っている。地域の行事に参加する機会もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて受診支援を行っている。必要 時には訪問診察に来てもらっている。併せて職員も積極的に医 療に関する研修等に参加している。週1回の院長の訪問巡回を し支援を得てる。 (外部評価) 家族等の希望で、利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医と している。2週間に1回協力医の往診があるほか、24時間対 応で医療連携が取れており、夜間の急変時でも適切な処置が受 けられるよう体制が整っている。近隣専門医への受診は職員が 同行し、その他の専門医には家族の協力により受診している。 また、希望があれば歯科の訪問診療が受けられるよう支援して いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 併設する病院、訪問看護、デイの看護師との連携がとれる体勢 にあり、常に相談助言をしてもらえる状況にある。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には毎日様子伺いに行き、病院側との情報交換をしなが ら、退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 病院との連携を図り、指導を受けながら重度者のケアにあたっ ている。又、職員は医学的知識が身につくよう研修に参加して いる。又、看取りを数回経験しており、緊急時にも迅速に対応 できるよう併設病院、訪問との協力体制が確立できている。家 族、本人の気持ちを大切に、納得のいく最期と迎えらるよう 支援している。 (外部評価) 「看取りに関する指針」があり、入居時にその指針により利用 者と家族に説明している。24時間の母体診療所の医療体制や 看護師との連携体制も取れているため、緊急時にも迅速な対応 ができるなど、利用者や家族の思いを受け止めながら穏やかな 最期が迎えらるよう支援している。また、看取りの経験もあり、 看取り後に職員間で反省会を実施するなど振り返りもできて いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防署による人命救急の研修を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、半年に一回避難訓練を行っている。運営推進会議のメンバー、ご近所の方にも協力をお願いはしている。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て火災避難訓練を実施しており、消防署員から、避難の途中で煙に巻かれて窒息する場合もあるので、煙を吸わない避難方法として部屋の戸を閉めその場に待機する方法もあるとのアドバイスを受けるなど、災害対策に生かすことができている。近隣の小学校で実施される避難訓練に参加するなど、地域との協力体制も築いている。また、備蓄品は米の準備はできているが、他の備蓄品の整備ができていないため、早急に水などの整備を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わり方、声掛けなど配慮した対応ができるよう話し合いをしている。 (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、目線を合わせた対応を心がけている。部屋で過ごしたいとの思いを尊重したり、排泄時と入浴時にはドアやカーテンを閉めたり、利用者の呼び方は名字で呼ぶなど、一人ひとりの気持ちを大切にケアの実践ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ひとりひとりにあった声掛けをし、利用者自身の自己決定を意識している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など個人の思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院に行かれたり、日常衣の自己選択だったり、それぞれの個性を尊重した身だしなみができるようになっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の能力に応じ、調理の下ごしらえや片付けを無理強いすることなく職員と共に行っている。誕生会には、本人のリクエストメニューを取り入れている。また、個々の状態に応じた調理内容を考え、一人一人が楽しみながら食事できるように支援している。地方祭の時には郷土料理を合同で作楽しんでい	
			(外部評価) 栄養士が献立を立て、調理担当の職員2名が昼食と夕食を調理している。朝食は夜勤職員が調理している。利用者と職員が同じテーブルを囲み和やかな雰囲気の中、食事をしている。使い勝手のよい箸が利用者毎に用意され、支援の必要な利用者には、職員が横に座り利用者のペースに合わせて援助がなされている。また、お正月にはおせち料理、夏にはソーメン流しを行うなど、季節を感じながら食事を楽しみが持てるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は毎日記録している。又、個々の状態に合わせて、トロミ剤使用、ミキサー食、キザミ食を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に声掛けをし、能力に応じて職員が対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表をつける事で、個々の状態を把握し、排泄の支援につなげている。排泄訴えのない利用者に対しては、時間を決め、声掛け誘導を行っている。便秘対策としては、利用者さん一人一人に合わせた服薬支援を行い、スムーズな排泄ができるよう支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握しており、日中はできる限りトイレで排泄できるよう努めている。リハビリパンツを使用したり夜間のみポータブルトイレを使用したりするなど、利用者の状態に合わせて自立を促している。また、布パンツを使用する利用者もおり、状態に合わせた用品の工夫を行いながら、一人ひとりの思いをくみ取った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事、水分補給や運動に気を付け、声掛けを行っている。一人一人の便秘解消する食物（さつまいも、牛乳）を本人より聞き取っており、内服薬と調整しながら支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間、曜日の変更など希望を受け入れながら対応している。コミュニケーションを図りながら安全でゆったりと楽しい入浴ができるよう心掛けている。本人の状態や希望に応じ、午前中に入浴も対応している。	
			(外部評価) 週2回午後入浴を基本としているが、希望があれば毎日入浴できるよう支援している。浴室は個別浴槽のため、利用者と1対1で向き合って利用者の思いがじっくり聞けるなど、新しい発見がある場となっている。入浴の苦手な利用者には、言葉かけのタイミングを工夫するなど対応している。また、ゆず湯や菖蒲湯など季節感を取り入れるなど、利用者が楽しんで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の休息や夜間の安眠等、その時々状況に応じて安心して休めるような環境作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ひとりひとりの使用している薬の内容が分かるようにしている。又、薬に変更があった時には記録に残し変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ひとりひとりの役割や楽しみごとを見出し生きがいのある生活が送れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一年を通して、できるだけ多く外出する機会を作り利用者の気分転換を図っている。家族にも協力を得て、家で過ごす時間を作っている。	
			(外部評価) 利用者は日常的に事業所周辺の散歩や玄関先での外気浴を楽しんでいる。また、事業所の畑作業をしたり、近くの図書館に本を借りに行ったり、菜の花畑やコスモスを見に行ったり、初詣や外食に行くなど利用者の要望に応じ季節ごとの外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて金銭管理をしてもらっている。本人、家族の希望があればホームで預かっている。(原則としては一定額の所持にて対応)	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じ自由に手紙のやり取りや電話が出来るようになってきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 生活しやすい空間作りに心掛けている。花を飾ったり壁面を工夫するなど、生活感、季節感のある物を上手く活用している。	
			(外部評価) 暖かい光が差し込み明るく落ち着いた雰囲気的空間となっており、壁には七夕飾りをするなど季節を感じられる工夫をしている。また、畳コーナーも設置され、利用者は横になったり洗濯物を畳んだり、ソファでくつろいだり、テレビを観たりおしゃべりをするなど思い思いの場所で穏やかな時間を安心して過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファ等の配置にも気を配り、常に利用者がくつろげるような環境作りを心掛けている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) プライベートな空間に配慮し、利用者の馴染み物や好みの物を生活の中に取り入れている。	
			(外部評価) 居室にはベッド、エアコンやクローゼットが備え付けられているほか、利用者は使い慣れた家具や家族の写真など馴染みの物を持ち込んだり、仏壇を持ち込みお供えをするなどしている。また、壁には利用者が作った作品や職員直筆の絵が飾られており、利用者が居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ひとりひとりの状態や能力を見極め、少しでも自立した生活が送れるように支援している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400200
法人名	医療法人竹林院
事業所名	グループホームかぐや姫
所在地	西予市野村町野村11-95-1
自己評価作成日	平成28年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 7 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・併設のデイサービス利用者との交流が自由にもてる。 ・併設に病院があり、希望に応じ受診、物療、リハビリが受けられ、対応も早い。 ・栄養士が献立を立てており、栄養のバランスがとれている。 ・月に1回、ボランティアによる音楽療法を実施。 ・月に2回、同法人との交流会を実施。 ・院長自ら、週1回程度GHを訪問し入居者との面談を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は田園地帯にあり、窓から見える風景に季節の移ろいを感じることができる。母体の診療所にはデイサービス、訪問介護事業所を併設されており、診療所に来た人やお見舞いに来た人がデイサービスで日常的に交流も行われている。近くには小学校、保育園、交番、市役所支所、銀行などがあり、生活しやすい恵まれた環境である。事業所と母体の診療所は協力体制が取れており、地域に密着した医療・介護の施設として運営され、利用者は安心してサービスを利用することができる。管理者は職員とのコミュニケーションを大切に、職員もまた管理者の声に耳を傾け何でも相談できる良好な関係が築かれている。地域とのつながりをさらに深め、地域とともに歩んでいけるような事業所を目指し日々取り組んでおり、さらなる発展が期待できる事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 各階それぞれに理念があり、毎日の申し送りや月に1度の勉強会などで理念に触れ、職員皆が同じ方向制を持ち意見の統一を図りながら実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 理念は玄関先に掲げられ、管理者と職員一人ひとりが高い意識を持って実践している。また、毎月第2火曜日には法人全体の勉強会や各部署のケア会議を行うなど、理念の実践ができるような体制づくりに努めており、研修報告は法人全体の勉強会で発表している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 隣の幼、小学校との交流の機会がある。公共の図書館、児童館も近隣に移設された事から出かけ、本を借りたり子供達とふれ合っている。</p> <p>(外部評価) 幼稚園の園児やバルーンアート、カラオケ、三味線、音楽療法など数々のボランティアの訪問がある。また、中学生の職場体験の受け入れや近隣小学校の運動会見学、秋祭りには子供神輿の訪問があり、利用者の楽しみの一つになっている。地域の清掃行事には職員が参加するなど、地域とのつきあいもできている。</p>	長年納涼祭を開催していたが、家族とのつながりを深めることの大切さを考慮し現在は、納涼祭を中止し家族会を年1開催としたため、家族とのつながりは深まっているが事業所と地域との交流が少ないのが現状である。今後は、地域とのつながりを深めるための法人全体での取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方から認知症についての相談を受けている。人材育成のために、実習生やボランティアの受け入れを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 地域住民、消防署長、警察署長、校長、市担当者等の参加を得て、 ホームでの生活の様子、行事の報告の他、消防署長には震災への対 応、警察には徘徊についての対応などの助言をうけている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、同法人が市内で運営するグループホームと合同で開 催している。会議には市担当職員、消防署長、小学校長、近隣住民、 利用者、家族など幅広い参加があり、事業所の職員も交代で参加し、 利用者の生活状況の報告や参加者からの貴重な意見や情報を実際に聞 くことができる有意義な会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 各関係機関との情報交換を行っている。今後とも共同関係が出来るよ うに担当者とは会う機会を増やすようにする。	
			(外部評価) 運営推進会議への参加を得て、事業所の利用状況や取組みを報告し意 見交換している。半年に1度、介護相談員の訪問がある。また、市地 域包括支援センターを基点に「キントーン」という情報ネットワー クの活用により、新情報もいち早く入手できるよう整備されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束等の研修に積極的に参加し、職員全員が身体拘束に関する理 解と意識を持っており、身体拘束は行っていない。	
			(外部評価) 外部研修に職員が参加し、研修報告は法人全体の勉強会で全職員へ周 知しているほか、事業所独自の身体拘束のマニュアルを作成し、ミー ティング等で身体拘束をしないケアについて話し合いを重ね実践に生 かしており、今後は定期的なマニュアルの見直しも検討している。安 全面に不安のある利用者の家族からは、安全確保の要望等もあるため 書面により同意を得て、出入口に鈴をつけている。また、言葉での拘 束についても職員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけて いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員が進んで、研修会に参加している。日々の利用者の声、表情、身体状態を十分把握し、安心して生活できるよう努める。又、言葉による虐待を起こさないよう注意し対応している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、知識取得に努力している。現在は制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上で入居されている。契約内容はわかりやすい表現を心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 話し易い雰囲気、環境作りに努め、出された意見等は直ぐに話し合いを持ち反映させている。毎年1回の家族会や面会時には利用者さんをまじえて、意見、要望を聞くように努め、得た情報は記録に残し、全職員で共有できるようにしており、必要に応じて、話し合いの場を設けている。 (外部評価) 利用者や家族等の意見や要望は、月1回、利用料の支払いでの来所時や家族会、電話連絡をする機会などで聞くよう努めている。出された意見は些細なことまで気に留めて申し送りノートに記入し、全職員で迅速に対応するよう心がけ、家族の希望があれば外泊を全面的に支援するなど要望等にも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常にコミュニケーションを図れるよう心掛け、要望や意見を聞くようにしている。必ず年1回の代表者との個別面談を実施している。又、月1回のリーダー会もあり必要時は職員の意見を聞く場を設けている。新採用職員には頻発に意見を聞く場を設け、早く職場になじめるよう努めている。	
			(外部評価) 毎月1回法人全体での会議を行い、会議終了後は事業所に戻り職員会を行っている。職員会では日々のケアについて話し合い、行事等について意見やアイデアを出し合っており、事業所で解決できないことは幹部会で報告し対応している。また、年1回職員は、法人代表者との個別面談で意見を伝えることができるようになっており、今年度は給与面での改善があるなど、管理者は職員が気軽に相談できる関係づくりに努めている。	ユニットごとに1年間の目標を決めて、よりよいケアに向けて取り組む意気込みはあるが、業務に追われケアの向上にまでは至っていない現実もあるため、今後は業務の質のさらなる向上を目指した取組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格給、精勤手当、昇級とあり、就業環境を考えてもらっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に1度、施設内の研修を実施している。施設外研修では希望を聞き、年間を通してひとりが2～3回は受講できるようにしている。 (研修への参加費として定額の手当を支給)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県、南予地区、市GHに連絡会があり、情報交換をしながら質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 地域定着型そのものの殆どが町内の為、利用者の状態をよく把握し、職員皆が情報を共有することができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 月に1回は家族の訪問(来所)をお願いしていることから、家族の話に耳を傾け、何を望んでいるのか、家族の気持ちになって受け止める努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 正確なアセスメントや家族の思いを傾聴し、満足できる支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩である意識を忘れず、尊敬の気持ちを込めた声掛けや傾聴に配慮し、寄り添うケアに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) どんな小さな事でも家族と連絡を取り合う事で信頼関係を築き、同じ思いで支援することを伝える。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) スーパー、なじみの美容院、友人宅、お墓参りに行ったり、地域の行事などに参加する事で、馴染みのある生活の継続を支援している。外出の際には利用者全員に事前にもう一度行きたい場所を聞いておき、思い出の場所巡りをしている。 (外部評価) 家族、親類、友人や併設のデイに来た知人の面会があり、「昔遊んだ川に行きたい」「海を見に行きたい」「自分が生まれた場所に行きたい」などの要望を叶えたところ大変喜ばれたり、関西在住の友人が帰省時に面会に来るのを心待ちにしている利用者の面会を支援するなど、馴染みの関係が継続できるよう努めている。また、面会回数の少ない家族には電話連絡をこまめにするなど、馴染みの関係が途切れないようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者ひとりひとりの個性を把握、理解し職員が間に入りながら、上手く人間関係が築けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了した後も病院や施設に様子伺いをしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のなにげない会話の中から、本人の気持ちや要望をくみ取り、それを必ず記録に残し、職員全員が共有できるようにしている。必要に応じて、家族にも協力をお願いしている。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりに向き合いながら、思いや意向を把握するよう努めている。意思疎通の困難な利用者には、普段のしぐさや表情などから意向をくみ取ったり、家族からの情報で思いを把握するよう努めている。利用者の思いは可能な限り実現できるよう努めており、把握した情報は日誌や申し送りノートに記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接、家族、本人から話を聞き、把握する。面会時や日常生活の中でこれまでの暮らしを知ることに努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の性格、生活習慣を把握し、できること、分かる力を生活の中で見つけていく。ひとりひとりを多方面から分析、把握、理解し対応していく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネ、担当者、各階のリーダーが主になって、本人、家族の思いや意見を聞き、月一回モニタリングを行い、状況確認し、3ヶ月に1回話し合いをし、見直しをしている。退院後など状態の変化に応じて、随時見直しをしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を反映し介護計画を作成している。遠方の家族には事前に電話連絡し、思いや意向を聞いている。利用者や家族から「握力をつけるため、新聞紙折りを続けたい」「歩行練習をしたい」「自力運転を続けたい」との希望を介護計画に盛り込み取り組んでいる。毎月のミーティングでモニタリングを行い、必要に応じて介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録し、それを基に介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設のデイサービスとの交流、併設病院への受診、物療、リハビリなど、その時の要望に応じて対応できる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年数回の三味線や、音楽療法のボランティア来てもらっている。年に何度か、幼、小、中学校との交流会がある。消防署の協力を得て防火訓練を行っている。地域の行事に参加する機会もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて受診支援を行っている。必要時には 訪問診察に来てもらっている。併せて職員も積極的に医療に関する研 修等に参加している。週1回の院長の訪問巡回をし支援を得ている。 (外部評価) 家族等の希望で、利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医としてい る。2週間に1回協力医の往診があるほか、24時間対応で医療連携 が取れており、夜間の急変時でも適切な処置が受けられるよう体制が 整っている。近隣専門医への受診は職員が同行し、その他の専門医に は家族の協力により受診している。また、希望があれば歯科の訪問診 療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 異変時や気になる事があれば、看護師に報告、相談し対応できてい る。又、併設する病院、訪問看護、デイの看護師との連携がとれる体 勢にあり、常に相談助言をしてもらえる状況にある。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には毎日様子伺いに行き、病院側との情報交換をしながら、退 院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 病院との連携を図り、指導を受けながら重度者のケアにあたっている 。又、職員は医学的知識が身につくよう研修に参加している。又、 看取りを数回経験しており、緊急時にも迅速に対応できるよう併設病 院、訪看との協力体制が確立できている。家族、本人の気持ちを大切 に、納得のいく最期と迎えられるよう支援している。 (外部評価) 「看取りに関する指針」があり、入居時にその指針により利用者と家 族に説明している。24時間の母体診療所の医療体制や看護師との連 携体制も取れているため、緊急時にも迅速な対応ができるなど、利用 者や家族の思いを受け止めながら穏やかな最期が迎えられるよう支援 している。また、看取りの経験もあり、看取り後に職員間で反省会を 実施するなど振り返りもできている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防署による人命救急の研修を受けおり、急変時や事故発生時に落ち着いて対応出来るよう備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、半年に一回避難訓練を行っている。運営推進会議のメンバー、ご近所の方にも協力をお願いはしている。	
			(外部評価) 年2回消防署の協力を得て火災避難訓練を実施しており、消防署員から、避難の途中で煙に巻かれて窒息する場合もあるので、煙を吸わない避難方法として部屋の戸を閉めその場に待機する方法もあるとのアドバイスを受けるなど、災害対策に生かすことができている。近隣の小学校で実施される避難訓練に参加するなど、地域との協力体制も築いている。また、備蓄品は米の準備はできているが、他の備蓄品の整備ができていないため、早急に水などの整備を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わり方、声掛けなど配慮した対応ができるよう話し合いをしている。	
			(外部評価) 職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、目線を合わせた対応を心がけている。部屋で過ごしたいとの思いを尊重したり、排泄時と入浴時にはドアやカーテンを閉めたり、利用者の呼び方は名字で呼ぶなど、一人ひとりの気持ちを大切にケアの実践ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ひとりひとりにあった声掛けをし、利用者自身の自己決定を意識している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など個人の思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院に行かれたり、日常衣の自己選択だったり、それぞれの個性を尊重した身だしなみが出来るようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の能力に応じ、調理の下ごしらえや片付けを無理強いすることなく職員と共に行っている。誕生会には、本人のリクエストメニューを取り入れている。また、個々の状態に応じた調理内容を考え、一人一人が楽しみながら食事できるように支援している。地方祭の時には郷土料理を合同で作り楽しんでいる。	
			(外部評価) 栄養士が献立を立て、調理担当の職員2名が昼食と夕食を調理している。朝食は夜勤職員が調理している。利用者と職員が同じテーブルを囲み和やかな雰囲気の中、食事をしている。使い勝手のよい箸が利用者毎に用意され、支援の必要な利用者には、職員が横に座り利用者のペースに合わせて援助がなされている。また、お正月にはおせち料理、夏にはソーメン流しを行うなど、季節を感じながら食事を楽しみが持てるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は毎日記録している。又、個々の状態に合わせて、トロミ剤使用、ミキサー食、キザミ食を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に声掛けをし、能力に応じて職員が対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表をつける事で、個々の状態を把握し、排泄の支援につなげている。排泄訴えのない利用者に対しては、時間を決め、声掛け誘導を行っている。便秘対策としては、利用者さん一人一人に合わせた服薬支援を行い、スムーズな排泄ができるよう支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握しており、日中はできる限りトイレで排泄できるよう努めている。リハビリパンツを使用したり夜間のみポータブルトイレを使用したりするなど、利用者の状態に合わせて自立を促している。また、布パンツを使用する利用者もおり、状態に合わせた用品の工夫を行いながら、一人ひとりの思いをくみ取った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事、水分補給や運動に気を付け、声掛けを行っている。一人一人の便秘解消する食物（さつまいも、牛乳）を本人より聞き取っており、内服薬と調整しながら支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間、曜日の変更など希望を受け入れながら対応している。コミュニケーションを図りながら安全でゆったりと楽しい入浴ができるよう心掛けている。本人の状態や希望に応じ、午前中の中入浴も対応している。	
			(外部評価) 週2回午後入浴を基本としているが、希望があれば毎日入浴できるよう支援している。浴室は個別浴槽のため、利用者と1対1で向き合って利用者の思いがじっくり聞けるなど、新しい発見がある場となっている。入浴の苦手な利用者には、言葉かけのタイミングを工夫するなど対応している。また、ゆず湯や菖蒲湯など季節感を取り入れるなど、利用者が楽しんで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の休息や夜間の安眠等、その時々状況に応じて安心して休めるような環境作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ひとりひとりの使用している薬の内容が分かるようにしている。又、薬に変更があった時には記録に残し変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ひとりひとりの役割や楽しみごとを見出し生きがいのある生活が送れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一年を通して、できるだけ多く外出する機会を作り利用者の気分転換を図っている。家族にも協力を得て、家で過ごす時間を作っている。	
			(外部評価) 利用者は日常的に事業所周辺の散歩や玄関先での外気浴を楽しんでいる。また、事業所の畑作業をしたり、近くの図書館に本を借りに行ったり、菜の花畑やコスモスを見に行ったり、初詣や外食に行くなど利用者の要望に応じ季節ごとの外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて金銭管理をしてもらっている。本人、家族の希望があればホームで預かっている。(原則としては一定額の所持にて対応)	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じ自由に手紙のやり取りや電話が出来るようになっていく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 生活しやすい空間作りに心掛けている。花を飾ったり壁面を工夫するなど、生活感、季節感のある物を上手く活用している。	
			(外部評価) 暖かい光が差し込み明るく落ち着いた雰囲気の空間となっており、壁には七夕飾りをするなど季節を感じられる工夫をしている。また、畳コーナーも設置され、利用者は横になったり洗濯物を畳んだり、ソファでくつろいだり、テレビを観たりおしゃべりをするなど思い思いの場所で穏やかな時間を安心して過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファ等の配置にも気を配り、常に利用者がくつろげるような環境作りを心掛けている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) プライベートな空間に配慮し、利用者の馴染み物や好みの物を生活の中に取り入れている。	
			(外部評価) 居室にはベッド、エアコンやクローゼットが備え付けられているほか、利用者は使い慣れた家具や家族の写真など馴染みの物を持ち込んだり、仏壇を持ち込みお供えをするなどしている。また、壁には利用者が作った作品や職員直筆の絵が飾られており、利用者が居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ひとりひとりの状態や能力を見極め、少しでも自立した生活が送れるように支援している。	